

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1119 2013年6月号

## 公益重視の管理経営を一層推進

平成25年度四国森林管理局事業概要の記者発表について紹介します。

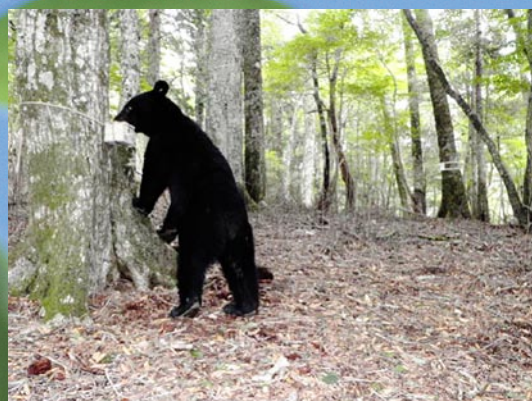
【詳細2頁】



平成25年度事業概要記者発表



【木材利用事例】木製残存型柵を使用した谷止工及び崩壊地に施工した丸太土留工（高知県四万十市）



ツキノワグマ



## 平成二五年度

### 四国森林管理局事業概要

〈企画調整課〉

五月二三日に行った平成二五年度四国森林管理局事業概要の記者発表について紹介します。

国有林野事業は、これまで

で特別会計で管理経営を行ってきましたが、昨年成り立った「国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等」の一部を改正する等の法律」により平成二五年四月一日から一般会計に移行しました。

これにより、公益重視の

管理経営を一層推進しつつ、我が国の森林・林業再生、地域振興に貢献する事業・組織としてスタートしました。

四国森林管理局においても、この目的に沿った組織の再編を行うとともに、公益重視の管理経営の一層の推進および我が国の森林・林業再生への貢献を旨として、民有林との連携に積極的に取り組みつつ、これまで以上に計画的かつ効率的な事業を実施していきま

す。

そして、地域と共に歩む「国民のための国有林」として、国民の皆様や地域社会のご期待に応えていきます。

これらを踏まえ、次の三つの柱に沿って事業展開を図ります。

#### 一 公益的機能の維持増進のための森林整備の推進

地球温暖化防止をはじめとする森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、地域の特色やニーズに応じ、人工林の複層林化、針広混交林化、長伐期化等により多様で健全な森林へと誘導する森林整備を推進します。

また、民有林・国有林

が連携した治山対策の取組を推進するとともに、生物多様性の保全に向け、原生的な天然林等の保全や人と野生鳥獣との共存に向けた取組を実施していきます。

#### (取組例)

##### ① 国有林における路網と高性能林業機械を活用した低コスト間伐の推進

森林・林業の再生と地域振興のためには、林業全体に係るコストの低減が重要な課題となっています。このため、多くの人工林で必要な間伐等において、高性能林業機械を導入するとともに、その性能を最大限に発揮させること、壊れにくく使いやすい路網を合理的に

開設し配置すること等により、伐採、搬出作業全体を通じて高い労働生産性を達成する効率的な作業システムを普及・定着することが重要となっています。



森林作業道

四国森林管理局では、間伐等の実施において、路網と林業機械を組み合わせた作業システムを積極的に導入しており、平成二四年度では契約件数の約八割を同システムで

実施しました。

平成二五年度においても、低コストで効率的な間伐の推進に向けて路網と林業機械を組み合わせた間伐事業を積極的に発注します。また、繰り返しの使用に耐える丈夫で簡易な森林作業道の作設技術の向上を図るため、林業事業体のオペレーター等を対象とした現地検討会を開催します。こ



造材プロセッサ

れらを通じて低コストで効率的な作業システムの民有林を含めた普及・定着を図ります。

## ② 治山事業の推進について

近年、多くの山地災害等が発生し、尊い人命や財産が失われたり、山間地の生活・交通に多大な影響を与えたりしています。このため、四国森林管理局では、平成二三年台風六号の豪雨被災地



奈半利川地区崩壊地全景

区、土石流対策等の必要が生じている地区等、民有林直轄治山事業等の推進に努めます。

また、国有林野内治山事業については、特に国有林と民有林が隣接する流域において、国と県の緊密な連携による重点的・総合的な治山対策が求められていることから、各県と連携して、民有林と国有林を一体とした計画を策定し、相互の事業調整を図りながら治山施設の設置、森林整備を推進する「特定流域総合治山対策」を実施し、奥山から集落近くの里山までの流域全体の保全、住民の安全・安心を確保します。

国有林内の谷止工施工状況



## ③ ニホンジカ被害対策の推進

近年、四国の東部・西部を中心に、ニホンジカによる農林業・自然植生への被害が深刻化しています。

このため、四国森林管理局では、森林地域における捕獲効率向上に繋がる技術開発を行うとともに、捕獲による個体数調

整に取り組んでいます。

また、食害による樹木の枯死や下層植生の衰退、消失等による土壌の流出等の被害が深刻化していることから、引き続き、ニホンジカの動態調査や地域住民等と協働で森林の再生、植生の回復等に取り組んでいます。



ボランティアとの協働による防護ネット柵設置 (三嶺)

平成二五年度の取組としては、囲いわな、箱わなの設置箇所を拡大するとともに、これまで収集したデータを活用し、現

開発した安価で簡易に設置可能な小型囲いわな



地に応じたわなの設置等を行い、さらに、新たに「くくりわな」にも取り組み、捕獲効率の向上、捕獲数の拡大を目指します。

また、これまでに開発した簡易かつ低コストで作設できる囲いわなの紹介や、捕獲効率向上に繋がるデータを普及する現地研修会を開催するほ

か、これらの研修会の内容、ニホンジカの動態調査結果等をホームページに掲載すること等による情報発信に取り組みます。

#### ④ 生物多様性の保全に向けた取組

野生動物の移動経路、生息・生育地を確保し、貴重な森林生態系を維持して生物多様性を保全するため、平成一五年三月に設定した「四国山地緑の回廊」(石鎚山地区・剣山地区：一八千ha)を対象として、緑の回廊の有効性の検証を行っていくモニタリング調査を継続的に実施しています。

これまでのモニタリング調査では、剣山地区に

において、四国では絶滅が危惧されているツキノワグマの生息状況を確認するとともに、石鎚山、剣山両地区での鳥類調査では、希少猛禽類であるクマタカの成鳥・幼鳥の生息を確認しました。



クマタカ

平成二五年度についても、引き続き石鎚山地区及び剣山地区を対象に、ツキノワグマ等の生息状況を把握するため自動撮影カメラやヘアートラック

プ等による哺乳類調査、ラインセンサスによる鳥類調査を行うこととされています。

#### 二 森林・林業の再生への貢献

地域の担い手となる林業事業者や人材を育成するために、国有林がフィールド・技術を提供して人材育成に係る研修を実施し、新たな森林計画制度や森林経営に関する民有林行政への人材支援を行うとともに、民有林と国有林が一体となった森林共同施業団地の設定を推進して森林・林業の再生に貢献していくこととされています。

また、大口の需要者に対して原材料となる木材を安定的に供給する「システム

准フォレスト研修の様子



販売」を引き続き実施するとともに、治山事業等の現場における木材利用を推進し国産材の利用拡大に取り組めます。

(取組例)

#### ① 国有林のフィールドを活用した人材育成の取組

四国森林管理局では、長期的視点に立った森林づくりや路網作設等を計画・指導できる技術者を

フォレスターとして育成するため、当局の有するフィールド、人材等を活かしながら、平成二三年度から准フォレスター研修を行っていきます。また、フォレスターとしての資格認定制度が今年度から始まりま

システムを構築することが必要です。このため、森林共同施業団地の設定等を推進し、民有林と国有林が連携した一体的な森林整備に取り組み、森林・林業の再生に貢献していきます。

す。国有林の職員からもフォレスターを育成し、各県のフォレスターと連携しながら市町村森林整備計画の作成や森林経営計画の認定など、民有林施策を支援していくこととしています。

平成二三年度には嶺北森林管理署と香美森林組合との間で、「南国市中之川地域森林整備推進協定」を締結しました。この協定に基づき平成二四年度末までに、民国合

における公益的機能の低下が、国有林の発揮している公益的機能に悪影響を及ぼすおそれがある場合等において、路網開設、間伐等の森林整備等を民有林と一体的に実施する公益的機能維持増進協定に取り組みこととしていきます。



協定の締結（嶺北森林管理署）

② 民有林と国有林が連携

した森林整備の推進

森林・林業の再生に向けては、「施業の集約化」に取り組み低コスト作業

も、引き続き森林共同施業団地の設定や、既設団地での森林整備に取り組みます。また、国有林と隣接・介在する民有林

③ 国有林材のシステム販売の取組

適切な間伐の実施により健全で豊かな森林づく

りを進め、間伐材などの森林資源の有効利用を推進していくことは、地球温暖化防止の観点からも重要な課題となっています。

このような中、間伐材を合板や集成材、紙の原料としてだけではなく、バイオマス燃料などとして無駄なく利用しようとする取組も進められています。



木材乾燥のための熱を供給する木質バイオマスボイラー

しかし、間伐材は販売に係る手間やコストが掛かり増しになる割には価格が安く、また、合板・集成材工場等のように低質材を大量に利用する需要者にとっても、少量・不安定な取引による調達には不便なものとなりました。

こうした問題を踏まえ、国有林では、大規模需要者等と協定を締結し、間伐材を大量かつ安定的・計画的に需要者に供給するシステム販売に取り組み、流通の簡素化や中間コストの縮減等を図るにより、間伐材の販路の確保や新規需要の開拓に取り組んでいきます。



林道に施工した木柵工（高知県四万十町）

④ 治山事業・森林整備事業における間伐材等木材利用の推進

地球温暖化の防止や資源循環社会の形成等に資する観点から「新農林水産省木材利用推進計画（平成二二年度～平成二七年度）」が策定され、

公共土木工事においては「グリーン公共事業の推進」という取組方針の下

に、間伐材等木材利用の

拡大を図ることとしていきます。

四国森林管理局では、

これを踏まえ治山事業・森林整備事業における間伐材等木材利用をこれまでに以上に推進していきま

三 森林への理解促進、国民参加の森林づくりに向けた取組

国有林を活用したふれ

あいの場の提供、森林環境教育の取組を推進するとともに、森林への理解を深めるための各種イベントの開催等に取り組みます。

（取組例）

① 木の文化を支える林産物の安定供給

「木の文化」の象徴で

ある伝統的木造建造物を将来にわたって維持・継承していくため、必要な資材を安定的に供給していきけるよう、「祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森」協定及び「伊予のふたのしまこじ之二名島古事の森」協定による森林づくり活動を推進します。

また、文化財資源備蓄



地元中学生によるシラクチカズラの挿し木

林を設定し、文化的価値のある木造建築物等に必要大径長尺材を供給することとしています。

② 森林への理解の醸成に向けた取組

四国4県とともに平成一六年度に発表した「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき、森林整備、木材利用、森林環境教育などの具体的な取り組みを推進しています。

引いた地域の森林・林業の歴史を巡る「魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を、秋期に実施する予定です。

また、四国の森づくりに積極的に取り組む団体、企業等を対象とした「四国山の日賞」を募集し、平成二五年一〇月二一日、一二日に徳島県で開催される「四国山の日」関連イベントにおいて、選考された団体を表彰します。

平成二五年度の取組としては、スギの巨木が林立する魚梁瀬の千本山国有林や復元された森林鉄道、この鉄道が牽



千本山ツアー



発電所の見学

梅雨の晴れ間となった六月八日、森林の役割や水とエネルギーとの関係について理解してもらうことを目的に四国電力高知支店との共催で「ふれあい親子体験ツアー」を開催しました。今回は、吉野川支流への放流場所に向かいました。放流場所には到着後行った開会式では、当局の技術普及課長より「水は自然の中を循環しており、今日の行事でそのことを実感して頂きたい」との挨拶がありました。その後、嶺北漁協よりアユの生態について説明があり、いよいよ水辺へ移動し放流です。バケツの中

で水しぶきを上げる活きのよいアユの稚魚を、子供たちは何度も往復し放流していました。次に、高知県の町脇の山の本川発電所エネルギープラザに移動し、四国で唯一の揚水発電所である本川発電所の水力発電の特徴と仕組み、役割などについて説明がありました。その後、滅多に行くことが出来ない地下三〇〇mにある発電所を見学し、高知県庁ほどあるという巨大な空間に圧倒



木製ゴム鉄砲なかなか当たらないなあ

さされました。見学の後、エネルギープラザに戻り、デジタル紙芝居の「森」を視聴し、森林について勉強した後、木工教室を行いました。子供たちは思い思いの感覚で、オリジナルの作品を仕上げていました。

一番盛り上がったのはゲーム大会でした。ビンボールビンゴゲームとゴム鉄砲による射的大会を行いました、真剣なまなざしで、一瞬の緊張を楽しみ、一喜一憂している子供たちでした。また、親子全員で行った「文字けん玉」では、親の面子を保とうと奮闘する姿も見られ、それぞれのゲーム上位者には手作りの木製景品がプレゼントされました。

閉会式後、参加者全員で記念撮影をし、にこやかな笑顔と共に帰路につきました。参加者からは、「自然の中でアユの放流などいろいろな体験ができ、本当に有意義な一日でした。」といった感想がよせられました。



親子で木工製作

# 各地のたより



五月二六日、つるぎ町一  
宇の久敷国有林（津志嶽周  
辺）で、つるぎ町役場主催  
の登山が行われました。

津志嶽（一、四九四m）  
の東面に群生するシャクナ  
ゲの古木は、地元住民から  
郷土の宝として大切に守ら  
れ、一昨年には、つるぎ町  
と四国森林管理局の間で「郷  
土の森」の協定が結ばれ、  
以来、シャクナゲの開花時  
期に合わせた記念の登山イ  
ベントが開催されています。  
今回の登山には、つるぎ

町が募集した参加者とガイ  
ド役のNPO剣山クラブ、  
当署の職員など、総勢三二  
名が参加しました。

当日、麓の久敷集落の  
阿弥陀堂で開会式が行わ  
れ、軽いストレッチを行っ  
た後、登山を開始しまし  
た。津志嶽は片道三時間以  
上の中級者向き登山コース  
ですが、途中の小川でのサ  
ンショウウオとの出会い、  
見上げるほど大きなシャク  
ナゲ群落など見所も満載で  
す。ガイド役である剣山ク  
ラブ会員による登山道沿い  
の植物の説明に熱心に耳を  
傾けるなど、参加者は終始  
登山を楽しんでいました。

花の咲き誇っているシャ  
クナゲ群落での昼食後、当

初は健脚組のみが一時間以  
上かけて津志嶽山頂を目指  
す予定でしたが、高齢の方  
も多く含まれるなか、参加  
者の全員が登頂したのには  
驚きました。これも「郷土  
の森」から授かったパワー  
によるものではないかと思  
いました。

つるぎ町では、「つるぎ  
クラブ」と称するイベント  
を積極的に実施しており、  
その中で「津志嶽シャクナ  
ゲ郷土の森」登山は、津志



植物を観察しながら散策

嶽のシャクナゲに親しみを  
持っていたいただき、全国に向  
け津志嶽の素晴らしさをP  
Rする機会と捉えています。  
当署は今後もこうした  
活動に協力していきたいと  
考えています。



五月二七日、徳島市立上  
八万小学校で三年生五四名  
と五年生四九名を対象とし  
た森林教室「徳島の森を知  
ろう・森林の話」を行いま  
した。

上八万小学校は、徳島県  
下でも数少ない学校林を所  
有する小学校で、森林環境  
教育に力を入れており、学

校側から「身近にある森林  
や樹木について、実際に森  
に入り木に触れながら教え  
てほしい」という依頼を受  
け、学校林や校庭の樹木を  
活用した森林教室を実施し  
ました。

三年生は、学校林で森林  
教室を行いました。始めに、  
子供たちから地球温暖化防  
止を題材とした歌の披露が  
あり、元気な声とともに開  
始となりました。森林教室  
では、パネルを使った地球  
温暖化防止機能の学習や、  
樹高の測り方を実演しまし  
た。子供たちはバーテック  
スや測竿など見慣れない器  
具に驚きの声をあげる一  
方、身近な三角定規でも樹  
高が測れることに感心して  
いました。その後、三人一  
組になってネイチャーゲー  
ムの「カモフラージュ」と



「フィールドビンゴ」を行いました。

「フィールドビンゴ」では、子供たちが森の中でいろいろなものを観察したり、触ったり、葉の匂いを嗅いだりしながら楽しんで学習していました。



フィールドビンゴの様子（3年生）

五年生は教室内で、森林に暮らす生き物や森林が二酸化炭素を吸収することなどを学習しました。その後、校庭で学校林の土とグラウンドの土を使った水源涵養

機能の比較実験を行いました。実験装置に水をかけ、

水がどうやって流れていくのかを観察しましたが、森林の土がよく水を吸い込むところや、流れ出してくる水がきれいなことを実際に目にし、森林の土が持つ水源涵養機能についてよく理解できたようです。最後は校内にある樹木の名前や特徴、見分け方などについて

サクラの葉を手にしたたり、クスノキの葉の匂いを嗅いだりしながら楽しく学習していました。

上八万小学校では、今後も環境などについて、学校林を活用しながら学習する予定であり、当署としてもこのような要望に応じ、継続的に森林の大切さなどの知識普及の機会を設けていきたいと考えています。



水源涵養機能実験（5年生）



六月二日、「ぐるっと剣山！交流促進事業」のオープニングイベントである剣山クリーンアップウォークが催されました。

この交流促進事業は、平成二六年三月三日に剣山国定公園が指定五〇周年を迎えることを記念し、徳島県

や関係する自治体・観光協会などが連携して剣山国定公園の魅力を発信していく取り組みです。今回のクリーンアップウォークはその第一弾となり、約二八〇名が剣山頂上周辺に集合し、清掃活動を行いました。

当日は、あいにくの小雨模様でしたが、開会式で子供たちが剣山の魅力を未来に引き継いでいくことを宣言し、飯泉徳島県知事からは、「産学官民の力を結集し、交流促進会議を立ち上げた」との提案があり、会場は盛り上がっていました。

今回の取組は、見ノ越（三好市東祖谷）と那賀町の二ルートから登山し、セレモニーの後に参加者がゴミを拾いながら下山するものであり、所々にジュースの空

缶、古い看板の破片等が見受けられ、両ルート合わせたゴミの量は二トン車三分の一程度となりました。

当署からは、五名が両ルートに分かれて参加しました。剣山の登山道としては登山リフトのある見ノ越側が有名ですが、「南つるぎ」といわれる那賀町側の登山ルートは、四国第三の高峰である次郎笈を経由して剣山に登頂する雄大なコースであり、このイベントを契機として多くの登山者に、その魅力を知ってもらえればと思います。

剣山の五〇周年記念行事はスタートしたばかり。今後は、県内各地で剣山をテーマにしたパネル展や記念フォーラム等が計画されており、当署としても、地域

の宝である剣山や祖谷溪などの自然の素晴らしさを多くの国民に発信できるよう、各種行事へ積極的に参加して行きたいと考えています。



清掃活動状況



六月二日、徳島市立沖洲児童館の小学生一四名を対

象に森林教室「徳島の森を知ろう」を徳島県立文化の森で行いました。

沖洲児童館から「子供たちに自然の中で遊ぶ楽しさを教えてほしい」と依頼があり、児童館の方と打ち合

わせをする中で、「子供たちが野外で遊んだり、生き

物に触れることがほとんど

ない」、「生き物に関する知識がほとんど無く、子供たち

を野外に連れていっても、何をしていいのかわか

らない」といった話が出ま

した。このため今回の森林

教室のプログラムは、森林

(自然)に触れ、遊びながら

学ぶことを目的に、自然の中

に人工物を置いてそれを

見つけて、観察力を

養ったり、昆虫の擬態等を

学ぶ、「カモフラージュ」、

いろいろな生き物や樹木の

花の色、葉の形・匂いなどを

五感を使って観察する

「フィールドビンゴ」、体を

動かして楽しめる「コウモリとガ」を実施することと

しました。

当日は参加者全員がタカ

ノツメやゼンマイなどの

葉っぱで作った名札を付けて

森に入りました。最初の

ゲーム、カモフラージュで

は、キノコや木の実の模型

など自然に同化した物もあり

難しいものもありまし

たが、六名がゲームをクリ

アしました。振り返りの際

には、見つけられなかった

子供たちから「難しい!」、

「わからなかった」など悔

しそうな声がありました

が、みんな楽しそうに学習

することができました。

また、移動途中の森林内

の歩道では、マイマイガの

幼虫を見つけて悲鳴をあげ

たり、コナラのドングリから芽が出ているのを見たり

と、普段触れることの少ない

自然を楽しんでいま

た。

「コウモリとガ」では、

コウモリ役の子は目隠しし

て、ガ役の子供たちを捕ま

えるというゲームを行いま

した。コウモリ役の子は、

目が見えない状態でガ役の

子供たちを捕まえなければ

ならず、ガに逃げられたり、

足を取られて転んだりとも

苦勞していましたが、

子供たちはこのゲームをと

ても気に入った様子で、後

日、児童館で続きをやるそ

うです。

今回の森林教室では、ネ

楽しい(コウモリとガ)

イチヤーゲームを主体とした遊びの要素が強いプログラムを実施しましたが、今後も、自然に触れる機会が少ない都市部に暮らす子供たちが、遊びを通して身近にある自然に触れ、楽しんだり、興味を持つきっかけになるような、参加しやすいイベントを実施していきたいと考えています。



楽しい(コウモリとガ)